

■岸田吟香 新聞人, 事業家。維新直前から、次々と新しい事業に挑戦し、後続への道を開いた。岸田劉生の父。

きしだぎんこう

天保大飢饉始1833= 美作国久米郡埴和村で、大百姓岸田修治郎の長子に生まれる。幼名達之治。

戦

幼時から神童として聞こえ、

大塩平八郎乱1837= 4歳:

適塾ホヱン・1838= 5歳: 近くの宝寿寺住職に学ぶ。

天保改革弾圧1842= 9歳:

阿部正弘首座1845=12歳: 久米北郡の安藤簡斎の学僕となり、漢学を学ぶ。

・ ・ ・ ・ ・ 1848=15歳: 津山に出て、永田幸平・上原存軒に漢学を、矢吹正則に剣道を学ぶ。

北斎没・ ・ ・ 1849=16歳:

国定忠治疎・1850=17歳: 江戸に出て、津山藩儒昌谷精溪に入門、その紹介で、江戸に出て林圀書頭の塾に入り、

尊徳報徳論・1851=18歳:

藤田東湖らと親交。圀書頭の代講として、秋田・水戸藩邸にも出講。

ペリー来航・1853=20歳:

開国開港・1854=21歳: 三河挙母藩の中小姓となるも、脚気悪化のため、帰郷し療養。

安政大地震・1855=22歳: 回復後、大坂に出て藤沢東畝に入門、太郎と改名。

松下村塾・1856=23歳: 再び、江戸に下り、藤森天山に漢学を学ぶ。

安政の大獄・1859=26歳: 三河挙母藩主の侍読に推挙されたが、水戸派の天山の高弟であったため幕府の追及を受け、上野国伊香保で潜伏生活。雅号の吟香は、その間の愛称銀公による。江戸に戻って、結婚するも、妻は流行病で死去。

桜田門外変・1860=27歳: 挙母藩儒官となるも、脱藩して、江戸に戻り、

遣欧使節・1861=28歳: 吉原の妓楼の主人として潜伏生活するうち、

禁門の変・1864=31歳:

海禁が進み、

眼病となって、横浜のアメリカ人医師ヘボンに治療を受けたのを契機に、「和英語林集成」の編纂に協力。

アメリカ帰りのジョセフ・ヒコと知り合って英語を学び、

薩摩藩士密航1865=32歳: 結婚し浅草に住む。ヒコの日本初の邦字新聞(海外新聞)創刊を助け、横浜に移り、「和英語林集成」脱稿。

薩長同盟・1866=33歳:

辞書印刷のため、ヘボンとともに上海に渡航。

大政奉還・1867=34歳:

\*「和英語林集成」を完成させて帰国。回船商社を設立、汽船を購入して江戸〜横浜間の運送に従事。ヘボンに伝授された目薬「精錡水」の販売開始。

明治維新・1868=35歳:

\*アメリカ人バン・リードと共同で(横浜新報もしほ草)を創刊、また独力で(金川日誌)を発行。

戊辰戦争終・1869=36歳:

横浜海産物問屋の娘と再婚し、上野に住む。

初の日刊新聞1870=37歳:

船を入手し、単独で京浜間の定期海運事業を始め、横浜に玩具骨董品店を開く。

廃藩置県・1871=38歳:

氷室商会を設立し、北海道から水を移入して販売。「横浜全図」を刊行。

明治6年政変1873=40歳:

発刊された(東京日日新聞)に招かれ、主筆として健筆をふるい、同紙の声価を高からしめる。

佐賀の乱・1874=41歳:

台湾出兵に際しては、日本で最初の従軍記者として戦況報道に活躍。

初の民間工場1875=42歳:

目薬「精錡水」を銀座に開業した楽善堂で製造販売。新聞広告を重視。イギリス人らと盲啞学校を計画し、

三つの反乱・1876=43歳:

明治天皇の東北北海道巡幸に随行し、記事連載。

西南戦争・1877=44歳:

第1回内国勸業博覧会の記事を連載。

大久保暗殺・1878=45歳:

上海に楽善堂支店を開き、日中貿易の促進や日中友好に奔走。

琉球処分・1879=46歳:

明治天皇の北陸東海巡幸に随行し記事連載。明治天皇の再度の東北巡幸でも記事連載。

・ ・ ・ ・ ・ 1880=47歳:

築地に、\*前島密らと盲啞学校の先駆となる(訓盲院)を設立開校、(薬事新報)(薬剂月報)を創刊し、業業者に推されて、東京売薬業組合頭取に就任、その発展に努める。

明治14年政変1881=48歳:

「清国地誌」「公法会通」を刊行。

新体詩抄・1882=49歳:

上海往復。中国で科挙用の袖珍本を出版し多大の利益を得る。

岩倉具視没・1883=50歳:

上海往復。

秩父事件・1884=51歳:

「富国策」を刊行、

内閣発足・1885=52歳:

上海往復。

帝国大学始・1886=53歳:

上海往復。現地で荒尾精と出会い、以後、支援。

国民之友始・1887=54歳:

「中外方輿全図」を刊行、

初の対等条約1888=55歳:

上海往復。

帝国憲法発布1889=56歳:

足尾鉞毒始・1891=58歳:

後に画家岸田劉生になる四男が誕生。

日清戦争始・1894=61歳: 日清戦争に当り、訓練指導した多くの青年が特務機関等に勤務、自らも中国各地を跋渉。

白馬会・ ・ ・ 1896=63歳: 勲六等瑞宝章。

八幡製鉄始・1897=64歳:

荒尾精が病死、彼を悼んで同志と(同文会)を設立。

子規句歌革新1898=65歳:

{東亜会}と合併させ、{東亜同文会}創設に尽力、

Bushidou・1899=66歳:

内外文献の中国語版を出版する{善隣訳書館}を設立。

ビアノ国産化・1900=67歳:

近衛篤磨と国民同盟会を組織。

田中正造直訴1901=68歳:

近衛篤磨と東亜同文医学会を組織するなど、

\*多角的な業績を残して、

日露戦争終・1905=72歳: 没した。